

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

代理人
佐藤 隆久

様

あて名
〒111-0052
日本国東京都台東区柳橋2丁目4番2号 創造国
際特許事務所



PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）の
送付の通知書

（法施行規則第57条）
〔PCT規則71.1〕

発送日
（日.月.年） 29.11.2005

出願人又は代理人
の書類記号 04-8057-SNY

重要な通知

国際出願番号
PCT/JP2004/009885

国際出願日
（日.月.年） 05.07.2004

優先日
（日.月.年） 04.07.2003

出願人（氏名又は名称）
ソニー株式会社

1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して特許性に関する国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの送付書とともに送付することを、出願人に通知する。
2. 国際予備報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際事務局に送付する。
3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備報告（付属書類を除く）の英語の翻訳文を作成し、それをその選択官庁に送付する。
4. 注 意

出願人は、各選択官庁に対し優先日から30月以内に（官庁によってはもっと遅く）所定の手続（翻訳文の提出及び国内手数料の支払い）をしなければならない（PCT39条（1））（様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付された注を参照）。

国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、特許性に関する国際予備報告の付属書類の翻訳文を含まなければならない。この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。

選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第II巻を参照すること。

出願人はPCT第33条(5)に注意する。すなわち、PCT第33条(2)から(4)までに規定する新規性、進歩性及び産業上利用可能性の基準は国際予備審査にのみ用いるものであり、締約国は、請求の範囲に記載されている発明が自国において特許を受けることができる発明であるかどうかを決定するに当たっては、追加の又は異なる基準を適用することができる（PCT第27条(5)も併せて参照）。そのような追加の基準は、例えば、実施可能要件や特許請求の範囲の明確性又は裏付け要件を、特許要件から免除することも含む。

名称及びあて名
日本国特許庁（IPEA/JP）
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

権限のある職員

特許庁長官

電話番号 03-3581-1101 内線 3586

5N 9554

様式PCT/IPEA/416（2004年1月）

添付用紙の注意書きを参照

注 意

1. 文献の写しの請求について

国際予備審査報告に記載された文献であって国際調査報告に記載されていない文献の複写

特許庁にこれらの引用文献の写しを請求することもできますが、独立行政法人工業所有権情報・研修館（特許庁庁舎2階）で公報類の閲覧・複写および公報以外の文献複写等の取り扱いをしています。

〔担当及び照会先〕

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目4番3号（特許庁庁舎2階）

独立行政法人工業所有権情報・研修館

【公報類】 閲覧部 TEL 03-3581-1101 内線3811～2

【公報以外】 資料部 TEL 03-3581-1101 内線3831～3

また、（財）日本特許情報機構でも取り扱いをしています。

これらの引用文献の複写を請求する場合は下記の点に注意してください。

〔申込方法〕

（1）特許（実用新案・意匠）公報については、下記の点を明記してください。

○特許・実用新案及び意匠の種類

○出願公告又は出願公開の年次及び番号（又は特許番号、登録番号）

○必要部数

（2）公報以外の文献の場合は、下記の点に注意してください。

○国際予備審査報告の写しを添付してください（返却します）。

〔申込み及び照会先〕

〒135-0016 東京都江東区東陽4-1-7 佐藤ビル

財団法人 日本特許情報機構 情報処理部業務課

TEL 03-3508-2313

注) 特許庁に対して文献の写しの請求をすることができる期間は、国際出願日から7年です。

- ### 2. 各選択官庁に対し、国際出願の写し（既に国際事務局から送達されている場合は除く）及びその所定の翻訳文を提出し、国内手数料を支払うことが必要となります。その期限については各国ごとに異なりますので注意してください。（条約第22条、第39条及び第64条(2)(a)(i)参照）

請 求 の 範 囲

1. (補正後) 制御ラインと第1のデータ供給ラインを駆動して特定される第1データ保持回路と、

5 前記制御ラインと第2のデータ供給ラインを駆動して特定され、前記第1データ保持回路の隣接した位置に設けられた第2データ保持回路と、

前記第2データ保持回路の出力レベルを検出し、該検出結果と閾値との比較結果に応じてタイミング信号を発生する比較回路と、

10 前記第1データ保持回路からデータを読み出す際、前記比較器のタイミング信号に応じて前記第1の制御ラインを駆動する駆動回路とを備え、

前記比較回路のタイミング信号に応じて、前記駆動回路により制御ラインを不活性化させ、前記第2データ保持回路のバイアスを所定レベルに設定するプリチャージする制御回路を

備えた半導記憶装置。

15 2. 前記制御ラインをワードラインとし、前記第1と第2のデータ供給ラインをビットラインとする

請求項1に記載の半導体記憶装置。

3. (削除)

4. 前記第2データ保持回路を前記第1データ保持回路ごとに設けた

20 請求項1に記載の半導体記憶装置。

5. (補正後) 第1制御ラインと第1のデータ供給ラインを駆動して特定される第1データ保持回路と、

第2制御ラインと第2のデータ供給ラインを駆動して特定され、前記第1データ保持回路の隣接した位置に設けられた第2データ保持回路と、

25 前記第2データ保持回路の出力レベルを検出し、該検出結果と閾値との比較結果に応じてタイミング信号を発生する第1比較回路と、

前記第1データ保持回路からデータを読み出す際、前記比較器のタイミング信号に応じて前記第1の制御ラインを駆動する第1駆動回路と、

前記第2制御ラインのレベルを検出し、該検出結果と閾値との比較の結果に応じて第2のタイミング信号を発生する第2の比較回路と、

- 5 前記第1データ保持回路からデータを読み出す際、前記第2の比較器のタイミング信号に応じて前記第2の制御ラインを駆動する第2駆動回路とを備え、

前記前記第1比較回路のタイミング信号に応じて、前記駆動回路により制御ラインを不活性化させ、前記第2データ保持回路のバイアスを所定レベルに設定するプリチャージする制御回路を

- 10 備えた半導記憶装置。

6. 前記第1と第2の制御ラインをワードラインとし、前記第1と第2のデータ供給ラインをビットラインとする

請求項5に記載の半導体記憶装置。

7. (削除)

- 15 8. 前記第2データ保持回路を前記第1データ保持回路の行方向と列方向に設けた

請求項5に記載の半導体記憶装置

9. ワード線および一对の第1のビット線に接続された第1のメモリセルと、

ワード線および一对の第2のビット線に接続された第2のメモリセルと、

- 20 少なくとも、前記ワード線を共通のタイミングで活性化させるワード線ドライバと、

を有し、

前記第1のメモリセルからデータの読み出しを行う場合には、前記第2のメモリセルに接続された前記第2のビット線のレベルに応じて、前記データの読み出

- 25 しのタイミングを決定する半導体記憶装置であって、

前記ワード線ドライバは、前記一对の第2のビット線の電位差が予め設定され

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）
〔PCT 36 条及び PCT 規則 70〕



出願人又は代理人 の書類記号 04-8057-SNY	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/009885	国際出願日 (日.月.年) 05.07.2004	優先日 (日.月.年) 04.07.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. G11C11/41 (2006.01), G11C11/419 (2006.01)		
出願人 (氏名又は名称) ソニー株式会社		

<p>1. この報告書は、PCT 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (PCT 36 条) の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で <u>3</u> ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で <u>2</u> ページである。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)</p> <p><input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)</p>	
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 PCT 35 条(2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見</p>	

国際予備審査の請求書を受理した日 17.01.2005	国際予備審査報告を作成した日 06.11.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 加藤 俊哉	5N	9554
	電話番号 03-3581-1101 内線 3586		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2005 年 4 月)

第I欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願
- ☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
- ☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
- ☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))
- ☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

- ☐ 出願時の国際出願書類
- ☒ 明細書
- 第 1-23 _____ ページ、出願時に提出されたもの
- 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ ページ*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- ☒ 請求の範囲
- 第 2, 4, 6, 8-16 _____ 項、出願時に提出されたもの
- 第 1, 5 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
- 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ 項*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- ☒ 図面
- 第 1-12 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
- 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- 第 _____ ページ/図*、 _____ 付で国際予備審査機関が受理したもの
- ☐ 配列表又は関連するテーブル
- 配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☒ 請求の範囲 第 3, 7 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表 (具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1, 2, 4-6, 8-16	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1, 2, 4-6, 8-16	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1, 2, 4-6, 8-16	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1 : JP 9-128958 A (ソニー株式会社) 1997.05.16
 文献2 : JP 2001-521262 A (アーティサン・コンポーネンツ・インコーポレーテッド) 2001.11.06

請求の範囲 1, 2, 4, 9-12, 14-16 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より進歩性を有しない。

ダミービット線DBL/DBLBの信号入力に基づき、イネーブル信号ENをローレベルに切り換えて、ロウデコーダRDCおよびカラムデコーダCDCを非アクティブ状態に制御し、プリチャージ動作に入ることが文献1の【0029】に記載されている。

また、文献1の第3図に、ダミービット線対のプリチャージ/プルアップトランジスタDP1, DP2がカラム選択信号COLによって制御されることが記載されている。上記の通り、文献1記載の発明では、ロウデコーダRDCとカラムデコーダCDCに同じ制御を行っており、DP1, DP2の制御をワード線WLで行ってもよいことは自明である。

また、メモリセルの読み出しに参照電圧との比較を行うセンスアンプを用いることは周知であり、ダミーセルの読み出しに該センスアンプを用いることは当業者であれば容易に想到し得たものである。

請求の範囲 5, 6, 8, 13 に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1及び文献2より進歩性を有しない。

ダミーセル用のワード線をメモリセルのワード線と別に設けること、ダミーセルを行方向と列方向に設けることは文献2の図1に記載されているように周知であり、文献1記載の発明において、上記構成を採用することは当業者であれば容易に想到し得たものである。